

女夫石遺跡発掘調査速報

No.13

土偶は妊婦さんの格好をしているものが多いことから女性の象徴ともいわれます。では、男性の象徴といわれるものは縄文時代には作られなかったのでしょうか？・・・実はあるのです。まさに男性そのものといえるでしょう。子孫繁栄を願ったのでしょうか？その名は「石棒（せきぼう）」です。女夫石遺跡でも発見されました。しかも意味ありげな場所に・・・。意味があるかないかはこれから各地の事例を調査しながら考えなければなりません、とにかく紹介します。



沢リ：遺跡の中に大きくて目立つ岩があるよ。周りにはたくさん土器、石器や石がでているね。あれ、何だか変わった形のものがあるよ。単なる石じゃなくて、加工してあるみたいだよ！

マキ：石棒（せきぼう）っていうんだって、男の象徴に似せてつくってあるみたいだよ。

沢リ：一体ナゼ・・・。

マキ：子孫繁栄（しそんはんえい）を願って作られたものだとわっているらしいよ。他の遺跡では、竪穴住居跡の奥壁にまるで祭壇（さいだん）のように置かれていた例もあるそうだよ。

沢リ：じゃあ、ここでも何かお祭でもしたのかな？

マキ：そんな、単純に考えちゃダメだよ！単に壊れたから、捨てただけかもしれないしね。でも、この大きな石の周りで発見されているのが何か気になるね・・・。

沢リ：それに、土偶もこの周辺でやや集中するみたいだよ。あと、火を焚いた跡があったりするんだって！

マキ：本当に何だか分からなくなってきたね。縄文時代って教科書だとほんの少ししかページがないけど、たくさん面白そうなことがあるんだね！（つづく）

これが石棒（せきぼう）です。下の部分は折れていました。折れた部分は現在のところ発見されていません。偶然壊れて捨てられたのか？わざと壊して捨てられたのか？捨てたのではなくて、何かここでお祭りをしたのか？色々なことを考えることができます。皆さんはどのように思いますか？